

令和6年度中間市地域水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は福岡県の北部に位置し、市のほぼ中央部を遠賀川が南北に縦断している。気候については、山陰型に属しているが、対馬海流の影響を受けて、年間平均気温 15℃前後、年間降水量 1,400mm 程度の比較的温暖地帯で遠賀川の西部に広がる遠賀平野を中心としたほぼ平坦な水田農業地帯である。

水田農業の主力は、水稻、麦および大豆であるがキャベツ、イチゴ、トマト、いちじくアスパラガス等の収益性の高い園芸農業も展開されている。

一方、気象条件や生産体制の各条件等により、水稻では高温障害による品質の低下、麦では、作付け拡大の停滞、大豆では、栽培管理を徹底しているが、単収が低下しており、それに伴う作付け面積の減少や大豆刈り取り組合の脱退、化学肥料価格の高騰等に伴うコスト削減が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が減少する中で主食用米以外の作物への転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

本市では、ほ場の条件等により大豆の作付け面積が少ないことから、主食用米からの転換作物として野菜等の導入を推進し高収益作物の拡大を目指している。

また、麦および大豆の作付け面積が減少傾向にあることから、産地交付金を活用し、土づくり拡大を図るとともに、地域振興野菜の作付を推進していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

生産者からの営農計画書の記載内容や水田台帳に基づくほ場の現地確認等により、畑作物のみの生産が続いている水田や調整水田等の長期間水稻の作付けがない水田については畑地化について検討・推進を実施していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

現在も作付けが増加している「農薬不散布米」や「減化学肥料米」を作付けして高付加価値化を図る。また、地産地消を推進するため学校給食への供給を図る。

(2) 非主食用米

ア 米粉用米

米粉用米については、非主食用米の推進と安定的な供給を目指し、実需者の要望数量に対応できるよう生産の拡大を図る。

イ 加工用米

加工用米については、実需者の要望数量に対応できるよう生産の拡大を図り、現在の契約数量の増加を目指す。産地交付金を活用することにより、安定的な供給を目指し生産の拡大を図っていく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、ほ場における排水対策などの基本技術の励行と土づくりの推進、二

毛作の取組により、単収と上位等級比率の向上を図る。産地交付金を活用して担い手による作付けおよび作付け拡大を支援する。また、土壌改良剤散布の取組を支援することで収益性向上を図り、農家所得の増大を目指す。

大豆については、産地交付金を活用して担い手による作付け及び作付け拡大を支援する。また、発生予察に基づく病虫害防除を実施し、生産性向上に取り組む。また、二毛作の取組や担い手への作付けの集約を図る。

(4) 高収益作物

消費の多様化、需要の動向に応じた安全で高品質な野菜等を計画的に生産する。また、学校食への供給に向けて、地域条件に適した新規作物の導入を関係機関と連携をとりながら推進し、少数多品目の野菜についても、産地交付金による作付け支援を行いながら今後の作付け面積維持を図る。特に「トマト」「いちじく」「いちご」「アスパラガス」を振興していく。

5 作物ごとの作付予定面積等 ~ **8 産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	139.2		121.9		121.9	
備蓄米	0.0		0.0		0.0	
飼料用米	0.0		0.0		0.0	
米粉用米	36.4		40.0		40.0	
新市場開拓用米	0.0		0.0		0.0	
WCS用稲	0.0		0.0		0.0	
加工用米	6.9		8.0		8.0	
麦	92.2	86.5	90.0	84.4	90.0	85.5
大豆	37.8	0.9	40.0	0.9	40.0	0.7
飼料作物	0.0		0.0		0.0	
・子実用とうもろこし	0.0		0.0		0.0	
そば	0.0		0.0		0.0	
なたね	0.0		0.0		0.0	
地力増進作物	0.0		0.0		0.0	
高収益作物	16.7		18.5		19.0	
・野菜	15.1		17.0		17.0	
・花き・花木	0.2		0.0		0.0	
・果樹	1.4		1.5		2.0	
・その他の高収益作物	0.0		0.0		0.0	
その他	0.3	0.3	0.5	0.5	0.6	0.6
・緑肥	0.3	0.3	0.5	0.5	0.6	0.6
畑地化	0.0		0.0		0.0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）(ha)	目標値(ha)
				(令和5年度)	(令和8年度)
1	麦	麦二毛作助成（二毛作）	麦の二毛作作付面積	86.5	104.0
2	大豆	大豆二毛作助成（二毛作）	大豆の二毛作作付面積	0.9	1.1
3、4	大豆	大豆発生予察に基づく 病害虫防除の実施（基 幹・二毛作）	大豆の病害虫防除実施 面積	36.5	41.0
5、6	麦	麦土づくりのための土 壌改良材散布（基幹、二毛作）	麦の土壌改良剤散布面 積	86.7	90.0
7、8	麦	麦作付拡大加算 （基幹、二毛作）	麦の作付拡大面積	1.0	9.0
9、10	大豆	大豆作付拡大加算 （基幹、二毛作）	大豆の作付拡大面積	6.5	7.0
11、12	販売を目的とした野菜等 （別表の作物のみ対象）	地域振興作物助成（野 菜等）（基幹、二毛 作）	地域振興作物作付面積	16.5	19.0
13、 14、 15、16	大豆、麦	担い手に対する加算 （大豆、麦） （基幹、二毛作）	大豆、麦作付面積	130.1	131.0
17	大豆	大豆生産助成（基幹）	大豆の作付面積	37.8	40.0
18	麦	麦生産助成（基幹）	麦の防除剤散布面積	0.5	9.5
19	緑肥 （クリムソンクローバー）	緑肥生産助成（二毛 作）	緑肥の作付面積	0.3	0.5

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要
都道府県名：福岡県
協議会名：中間市地域水田農業推進協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	麦二毛作助成(二毛作)	2	4,000	麦	基幹作物に主食用米または戦略作物助成の対象作物を作付けていること
2	大豆二毛作助成(二毛作)	2	14,000	大豆	基幹作物に主食用米または戦略作物助成の対象作物を作付けていること
3	大豆発生予防に基づく病害虫防除の実施(基幹)	1	2,000	大豆	防除実施面積に応じて支援
4	大豆発生予防に基づく病害虫防除の実施(二毛作)	2	2,000	大豆	防除実施面積に応じて支援、二毛作で作付
5	麦土づくりのための土壌改良剤散布(基幹)	1	2,000	麦	土壌改良剤の散布面積に応じて支援
6	麦土づくりのための土壌改良剤散布(二毛作)	2	2,000	麦	土壌改良剤の散布面積に応じて支援、二毛作で作付
7	麦作付け拡大加算(基幹)	1	2,000	麦	麦作付け拡大面積に応じて支援
8	麦作付け拡大加算(二毛作)	2	2,000	麦	麦作付け拡大面積に応じて支援、二毛作で作付
9	大豆作付け拡大加算(基幹)	1	2,000	大豆	大豆作付け拡大面積に応じて支援
10	大豆作付け拡大加算(二毛作)	2	2,000	大豆	大豆作付け拡大面積に応じて支援、二毛作で作付
11	地域振興作物助成(野菜等)(基幹)	1	13,000	販売目的とした野菜等(別表の作物のみ対象)	地域振興作物の作付面積に応じて支援
12	地域振興作物助成(野菜等)(二毛作)	2	13,000	販売目的とした野菜等(別表の作物のみ対象)	地域振興作物の作付面積に応じて支援
13	担い手に対する加算(大豆、基幹)	1	2,000	大豆	病害虫防除の実施及び土壌改良剤散布面積に応じて支援
14	担い手に対する加算(大豆、二毛作)	2	2,000	大豆	病害虫防除の実施及び土壌改良剤散布面積に応じて支援
15	担い手に対する加算(麦、基幹)	1	2,000	麦	病害虫防除の実施及び土壌改良剤散布面積に応じて支援
16	担い手に対する加算(麦、二毛作)	2	2,000	麦	病害虫防除の実施及び土壌改良剤散布面積に応じて支援
17	大豆生産助成(基幹)	1	1,000	大豆	雑草防除実施面積に応じて支援
18	麦生産助成(基幹)	1	1,000	麦	雑草防除実施面積に応じて支援
19	緑肥生産助成(二毛作)	2	17,000	緑肥(クリムソクローバー)	緑肥作付面積に応じて支援